

県外派遣報告書

審判員名（報告者）	江崎 楓	所 属	埼玉県 U15
大会名	令和 7年度 関東U15部会所属 審判クリニック		
期 間	2026年 2月17、2月21日～22日		
会 場	市川塩浜体育館		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
2月17日	審判会議、研修会	ZOOM 会議 参加者自宅他	
2月21日	実技研修	市川塩浜体育館	
2月22日	実技研修	市川塩浜体育館	
審判会議、研修会 講義内容			
<ul style="list-style-type: none"> ● 3POのメカニクスについて ● プレゼンテーションについて ● 試合中に反省をしない ● できたことを1つみつける ● S級、A級、B級の違いについて 			
担当試合①			
期 日	2月21日（土）		
対戦カード	埼玉 vs 東京		
ク ル ー	CC：諏訪 圭祐氏（東京） U1：佐々木 優稀氏（神奈川） U2：江崎 楓（埼玉）		
ミーティング内容		審判主任：伊藤氏（千葉）	
<p>▶ゲーム前のPGC</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スイッチサイドをチャレンジする ・積極的に判定する <p>▶ゲーム後のミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リードのバックペダルを使用する。スイッチサイドをする際には、クルーとアイコンタクトをできるよう意識する。 ・フロントコートに入る際のトレイルセンターの受け渡し。 ・見栄えのスピード、丁寧さの徹底 			
担当試合②			
期 日	2月22日（日）		
対戦カード	山梨 vs 群馬		
ク ル ー	CC：島田 芙美（東京） U1：福間 遥奈氏（神奈川） U2：江崎 楓（埼玉）		
ミーティング内容		審判主任：草野氏（東京）	
<p>▶ゲーム前のPGC</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に判定 ・プライマリ意識 <p>▶ゲーム後のミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3POメカニクスの確認。 ・スローインの前にプレイヤーではなく、クルーの確認も怠らない。 ・見栄えの落ち着き（コール後のフリースローやシューターにパスする際の動作）。 			

全体の感想

判定の部分では自分には足りない思い切りの良さを他県の方から学ぶことができました。また、県ごとに意識の仕方が違うこともあり、新たな発見があり、とても勉強になりました。また、講師の方々には自分が無意識にやっていたリードの奥行きを使いすぎることやレポートのスピード、パスの出し方、ボールの持ち方、レフェリーデフェンスの仕方を改めて振り返ることができました。今後のレフリー活動でも、毎回の意識で、今回の反省の中ですぐに治せるものは訂正していき、あたりまえのことをあたりまえにできるレフリーになりたいです。

県外派遣報告書

審判員名（報告者）	小川 堅大	所 属	U15 連盟
大会名	令和 7 年度 関東 U15 部会所属 審判クリニック		
期 間	2026 年 2 月 21 日 ~ 22 日（参加日：2 月 21 日・22 日）		
会 場	千葉県 塩浜市民体育館		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
2 月 17 日	審判会議、研修会	ZOOM 会議 参加者自宅他	
2 月 21 日	関東 U14DC 交流試合（男子）	塩浜市民体育館	
2 月 22 日	関東 U14DC 交流試合（女子）	塩浜市民体育館	
審判会議、研修会 講義内容			
<p>●【開講式・挨拶】関東ブロック中体連審判長 草野 伸明 氏</p> <p>普段から培ってきた力を思いっきり発揮してもらいたい。見られてはいるが、評価の場ではない。“良く見せよう”という意識ではなく、“各都県の DC のために”という意識で取り組んでもらいたい。このような研鑽のチャンスを逃さないためにも、常日頃から健康第一で体調管理に十分留意すること。</p> <p>●【オンラインレクチャー①】『きちんと始めて、きちんと終わらせる』～メカニクスと IoT～ 山梨県 A 級審判員 雨宮 恵 氏</p> <p>プライマリア（エッジは基本的にはリードプライマリ）、ワーキングエリア、ノーワーキングエリアの確認。こういった基本が何より大切である。こうした正しいメカニクスが身につくと、余計なノイズが減り、気遣いを増やすことができるため、クルー間のよりよい協力につながる。また、表示物関連の管理や、インテンシティコントロールなど、様々なことに気を配れるようになり、気づきを増やせる。そして何より、精度の高い判定ができるようになる。正しいメカニクスの遂行のために、それぞれの場面で意識していることは何か。</p> <p>【試合前】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スコアシートは正しく記入されているか。 ・ボールのサイズは合っているか。（とくに女子ゲーム→男子ゲームの時など） ・コート状況の把握（ラインの色・ベンチエリアは適切か等） ・コーチへの挨拶 ・TO や FK への声かけ <p>【トスアップ時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TO の準備は整っているか ・自分のプライマリでのバイオレーションやファウルをコールする準備 ・トスアップは予備動作無しで <p>【トスアップ直後】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロックは正しく動いているか ・アローの向きは合っているか <p>【トレイル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・45 度の身体の向き ・クロックの管理 ・センター、リードが見えないプレーをカバー <p>【センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・C to C のスプリント（4 秒以内） ・身体の向きはサイドラインと並行 ・ローセンター <p>【リード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミラー・ザ・ボール ・ヘルプ DF のつかまえ ・ピック・ザ・ペイント ・ローテーションのタイミング <p>どの場面でも重要な審判員のプレゼンテーションについて</p> <p>→“誰に伝えるためのプレゼンか” を考える。プレゼンは自分のためではない。自分に合うスタイルを見つけ、TPO を考えながら取り組むことが重要である。</p> <p>一つ一つのことを丁寧に正しいメカニクスを 1 ゲーム通して実行し続ける。ただし、メカニクスが目的ではなく、メカニクスは試合を進める方法の一つ。だから使いこなせるようになる必要がある。</p>			

●【オンラインレクチャー②】『選手の力を引き出す判定のために』 東京都 A 級審判員 永田 裕衣

「プレーコーリング」すなわち「判定する」とはどのようなことか。「よりよい判定」とは何か

→選手の力が十分に発揮されることにつながったか。よりよい判定のために、プレーを長く見ること。

→そのために、プレーを「早くつかまえる」こと。

→早くつかまえるために、選手やチームの特徴（先入観×）、メカニクス、予測（過去の事実から分析）、選手の表情や感情、などの気づきの数を増やすことが重要である。

→気づきの数を増やすために、様々なシチュエーションで起こりそうなことをたくさん知っておくこと

[シチュエーション①]「ターンオーバーが起きたときに起こり得ること」

・UF ・SC のエラー ・メカの崩れ ・ボーナスシチュエーションかどうか（コントロールの有無） ・ダブルファウル

[シチュエーション②]「SC の秒数が残りわずかなときに起こり得ること」

・ショットを認めるかどうか ・途中で成立なら、マジックタイムは ・ファウルが先か、ブザーが先か ・ヘルドボール or SC バイオレーションが成立か ・ブザーの音の勘違い（ゲームクロックが少なかったとき）

このように、情報や気づきを増やすことは大切。様々な状況が重なると判定・対応が難しくなる。

→不要な仕事が増えないように、事前に防げそうなことは防ぐ努力をする。

[シチュエーション①]「フリースローのボールを渡すときに気をつけていること」

・タイマー（何分何秒か） ・フリースローの数 ・交代は来ていないか ・レーンに並んでいるか ・シューターは線を踏みそうでないか ・シューターの準備は整っているか

[シチュエーション②]「スローインのボールを渡すときに気をつけていること」

・スローインの位置は合っているか ・タイマー、SC はいくつか ・交代は来ていないか ・セットプレイの位置に OF はついているか ・自分の渡す位置はここでいいのか ・バックコート、8 秒バイオレーションまで残り何秒か

様々なシチュエーションを想定しておけばいつか役立つかもしれない。しかし、最も重要なことはインプットではなくアウトプットすることである。→アウトプットには勇気が必要。⇒泥臭く多くのゲームを吹き続ける中で、アウトプットにチャレンジする。

それでもくり返しくり返し取り組んでいても、なかなか成果がでないのが現状。そこで現在も心がけていることは次の 4 つである。

① 「何か一つテーマ（目標）にして取り組む」

・まずは、できない要因を具体的に分析する

→ルール理解不足？、どういうシチュエーションか？、どうするべきだったのか、などと自己分析をしたうえで、自分が決めたテーマ（目標）に取り組む。

② 「試合中に反省しない」

・やるべきことは目の前のプレーに集中し続けること。反省はゲーム後にいくらでもできる。1 つの判定に気をとられて次の判定に支障が出てしまえばさらにマイナスになってしまう。

③ 「できたことを 1 つ見つける」

・できないことばかりに目を向けてしまえばモチベーションが下がってしまう。どのライセンスにも「完璧」はない。何か 1 つでもうまくできたことを見つけ、認めることが重要。

④ 「たくさん失敗する」

・トライしなければリターンはない。「吹きすぎちゃった」⇔「全然吹けなかった」のくり返しによって徐々に安定していく。

担当試合①	
期 日	2月21日(土) U14DC男子
対戦カード	① 千葉 vs 茨城 ② 千葉 vs 群馬 ③ 埼玉 vs 栃木
ク ル ー	① CC: 渡辺 学 氏 (山梨) U1: 小川 U2: 桑原 由黄 氏 (千葉) ② CC: 小川 U1: 桑原 由黄 氏 (千葉) U2: 渡辺 学 氏 (山梨) ③ CC: 桑原 由黄 氏 (千葉) U1: 渡辺 学 氏 (山梨) U2: 小川
ミーティング内容	講師: 雨宮 恵 氏 (山梨) 審判主任: 星河 聖 氏 (群馬) : 鈴木 孝一 氏 (茨城) : 伊東 洋揮 氏 (千葉)
<p>▶ゲーム前のPGC</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインレクチャーにもあったベーシックなメカの確認。(コフィンコーナー付近でセンターがビジー状態になったときのローテーション) ・早い段階からのチーム情報のインプット。 ・表示物関連の管理。 ・タイムアウトがないため、クルー間のコミュニケーションが難しい。そのため、アイコンタクトや積極的に声をつかってボールデッド時に情報共有をする。 <p>▶ゲーム後のミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪い手の使い方をゲームから排除したいという意図は伝わってきてよかった。 →その中で、本当にコールする必要があったのかを吟味できるとよりよい。 ・チェックインとチェックアウトのタイミングについて、自分のプライマリアreaから始まったプレーでも、最終局面の状況によっては、無理に判定をしにいかなくてよい。 ・コンタクトの事実はあるけど、被害者は本当にいたのか。逆にコールした方がよかったものがノーコールのケースがあった。 →判定にムラがある。そうなっていることにまず自分で気づき、原因を具体的に自己分析できるように。 ・リード時、顔だけを動かして判定しているときがあった。常にオープンアングルと45度の意識。また、ローテーションの材料を探しているせいか、ボールがある上周りを見ていることが多い。ペイント付近はすべて捉えるつもりで、自分のプライマリにフォーカスする。 ・笛が弱く、プレーが止まらないことがあった。余計なトラブル防止のためにも、笛の強弱にはこだわっていく。 ・FULの見方について、とくにL(ランディング)が課題。目線を下→上→下と、丁寧に確認する。 ・タイムインの手、ヘルプフラッシュの手、左右どちらの手の方が伝わりやすいかを考えて取り組む。プレゼンは自分のためではなく、誰かにわかりやすく伝えるためのもの、という意識をもつ。 ・8秒バイオレーションの判定はセンタープライマリであるという意識をもつ。カットにいったDFは、相手のフロントコートに入っていたか？フロントにボールが運ばれたことになっているのかいないのか、センターがプライマリフリーとして確認する。 	
担当試合②	
期 日	2月22日(日) U14DC女子
対戦カード	① 千葉 vs 茨城 ② 東京 vs 栃木 ③ 群馬 vs 埼玉
ク ル ー	① CC: 一木 知哉 氏 (群馬) U1: 榎原 拓司 氏 (東京) U2: 小川 ② CC: 榎原 拓司 氏 (東京) U1: 小川 U2: 一木 知哉 氏 (群馬) ③ CC: 小川 U1: 一木 知哉 氏 (群馬) U2: 榎原 拓司 氏 (東京)
ミーティング内容	講師: 雨宮 恵 氏 (山梨) 審判主任: 鈴木 孝一 氏 (茨城) : 草野 伸明 氏 (東京) : 栗田 賢吾 氏 (神奈川)

▶ゲーム前の PGC

- ・昨日の反省の振り返りと共有。
- ・影響の出方が昨日と変わるはずなので、プレーの吟味。そのための気づきとインプット。

▶ゲーム後のミーティング

- ・クロック管理よくできているが、知っておいて本当に訂正が必要かどうかの判断をする。また、コート全体を把握しようとするのはよいが、自分のプライマリに判定すべきマッチアップがあるときに、瞬時にポジションアジャストできるように。プライマリなど目の前に集中する時間と、全体を捉える時間と、順番やタイミングにこだわる。
- ・POC にこだわる。チームにこちらのメッセージがなかなか伝わらないのは、その POC コールのせいかもしれない。しかし、それでも悪いものは吹き続ける勇気と決断を。
- ・スローインの再開場所は本当にそこでよいのか。まずコールしたレフリーが確認。→クルーに伝わりやすいプレゼンと声で示す。また、レポートの位置にもこだわる。プレーヤーが多い中でレポートしていないか、次に自分がポジションする場所から大きく離れていないか等
- ・コールしたレフリー以外のレフリーが各々の役割を果たす。→ファウルをしたプレーヤーの番号確認、シューターのつかまえ、表示物関連の管理、ベンチ・プレーヤーとのコミュニケーションなど。
- ・アングルの取り方について、ポジションアジャストをオフェンスの動きに合わせていないか。あくまでレフリーディフェンス。ディフェンスのイリーガルなアクションを判定するためのポジションアジャストを心がける。

全体の感想

この度、関東クリニックに参加させていただき、普段お会いすることができない方々との交流や割当を通じて、様々な学びや刺激を得ることができました。また、昨年の関東クリニックでお会いした方々とも1年ぶりに再会でき、お互いの成長を分かち合う喜びもありました。

わかりやすく丁寧なプレゼンテーション、3人のベーシックなメカニクスの遂行、ポジションアジャストの重要性、悪いプレーをゲーム序盤から排除する大切さ、TO 管理への強い意識など、日頃から自分が取り組んできたことではありましたが、課題が多く見つかりました。今回の講習会を経て、自分はまだまだ足りないことだらけだけど、1つでもできたことにフォーカスして前向きに、そして向上心を絶やさず取り組む重要性を改めて感じました。こうした審判活動に取り組めることを当たり前と捉えず、常に感謝の気持ちを忘れずに、貪欲に、そして謙虚に学び続けていきます。

最後になりますが、開催県である千葉県バスケットボール協会の皆様、講師の雨宮様、永田様、ご指導いただいた各都県のU15 審判長の皆様、今回の関東クリニックに派遣して下さった埼玉県バスケットボール協会、日々ご指導してくださっている皆様へ心より感謝申し上げます。今回の経験や学びを最大限に生かし、目標であるトップリーグレフリーに向けて自己研鑽を積み重ねていくと共に、日頃から大変お世話になっている県内審判員の皆様と切磋琢磨しながら、さらに自分を高めていけるよう努力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

県外派遣報告書

審判員名（報告者）	千葉 みのり	所 属	埼玉県U15部会所属
大会名	令和7年度 関東U15部会所属 審判クリニック		
期 間	令和8年2月17日（火）、2月21日（土）～2月22日（日）		
会 場	塩浜市民体育館		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
2月 17日	開講式・レクチャー	ZOOM 会議 参加者自宅他	
2月 21日	関東 U14DC 交流試合 1日目（男子）	塩浜市民体育館	
2月 22日	関東 U14DC 交流試合 2日目（女子）	塩浜市民体育館	
審判会議、研修会 レクチャー内容			
<p>●雨宮氏「きちんと始めて、きちんと終わらせる」</p> <p>改めてメカニクスの確認として、講義をしていただいた。正しいメカニクスが身につくことによって、クレーで気持ちよく協力することに繋がる。その協力がノイズを減らし、余計な心配が減ることによって、気付きや気遣いへの意識を高めることができる。その結果、良い判定へとつながる。また、未然に防げるものは確認を徹底して解消しておくことで、試合をきちんと終わらせることに繋がる。</p> <p>●永田氏「選手の力を引き出す判定のために」</p> <p>より良い判定とは、選手の力が十分に発揮されることに繋がったかどうか、という観点から講義をしていただいた。判定のために、プレーを長くみるというが、それは分析の時間を長くするというわけではなく、プレーを早く捕まえて発見までの時間を長くすることである。そうすることで、吹き急いだり逃したりすることを減らすことに繋げていく。</p> <p>審判を続けていて、なかなか成果が出ないときは、何か1つのテーマ（目標）に絞って取り組むことで一つ一つの問題を解消していく。そして、何か一つ上手いことを見つけて自信にしていく。失敗したことはその場で反省はせず、次のことにフォーカスして試合に集中する。たくさん失敗をしてしまっても、トライをしなければリターンは生まれなため、その失敗を失敗で終わらせないことが大切である。</p>			
担当試合 1日目①			
期 日	2月21日（土） 8試合目		
対戦カード	東京都 VS 群馬県（中学生男子）		
ク ル ー	CC：長谷高 崇氏（千葉） U1：大房 建太氏（栃木） U2：千葉 みのり（埼玉）		
ミーティング内容	IR：栗田 賢吾氏（神奈川）		
<p>▶ゲーム前の PGC</p> <p>3PO メカニクスの確認と、それぞれの課題を共有し合った。</p> <p>メカにおいては、リードのスイッチサイドやエッジの見方、C サイドエントリー時のローテーション、8 秒バイオレーションやバックパスの確認、EOQ/EOG についての確認などを行った。</p> <p>それぞれの課題の部分では、「ポジションアジャスト」を意識していることを伝え、試合に臨んだ。</p> <p>▶ゲーム後のミーティング</p> <p>IR の栗田氏（神奈川） から、ポジションアジャストを意識していることがとても伝わってきた。ロートレイル・ローセンターの意識は引き続き継続して欲しいと好評をいただいた。一方で、自分のプライマリーから始まったプレーを長く見すぎてしまい、相手のプライマリーへチェックアウトしなければならないプレーをジャストでコールしてしまう場面があったため、チェックインチェックアウトの意識と、ケイデンスコールの意識が持てると良いとの反省をいただいた。</p> <p>主任の雨宮氏（山梨）からは、プレゼンの強さと、OF・DF のどちらかで決着をつけなければならない場面で、しっかり決断をしたとこ</p>			

ろは良かったと好評をいただいた。その判定の中身をより正解に近い方で決断できるようになることが、次のステップだと言っていたため、もっとプレーを長く見て、判定につなげていきたい。

担当試合 1日目②

期 日	2月21日(土) 13試合目
対戦カード	山梨県 vs 栃木県 (中学生男子)
ク ル -	CC : 大房 建太氏 (栃木) U1 : 千葉 みのり (埼玉) U2 : 長谷高 崇氏 (千葉)
ミーティング内容	IR : 星河 聖氏 (群馬)

▶ゲーム前の PGC

1 本目の試合で発生した事象をもとに、よりベストなメカニクス・クルーの協力ができるように確認を行った。

▶ゲーム後のミーティング

インターバル 5 分間という限られた時間の中での講評であった。

IR の星河氏 (群馬) から、1 本目で言われた個々の課題と、この 2 本目に何を意識して取り組んだのかを聞かれ、それぞれが回答したあと、実際にその取り組みがどうだったかを簡潔に評価していただいた。

担当試合 1日目③

期 日	2月21日(土) 14試合目
対戦カード	千葉県 vs 埼玉県 (中学生男子)
ク ル -	CC : 千葉 みのり (埼玉) U1 : 長谷高 崇氏 (千葉) U2 : 大房 建太氏 (栃木)
ミーティング内容	IR : 荻野 健氏 (山梨)

▶ゲーム前の PGC

今まで言われてきたこと、ラストのゲームで意識して取り組みたいことを再確認して試合に臨んだ。

▶ゲーム後のミーティング

IR の荻野氏 (山梨) から、プレゼンの強さや立ち振る舞い、判定の説得力について良いものを持っていると好評をいただいた。

一方で、頭の上から行ったトスアップに対して、男子だからと言って無理に上から上げる必要はないと反省をいただいた。普段からトスアップが苦手であるため、ぎこちなさが生じてしまった。練習を重ねて、滑らかなトスアップを上げられるよう努めていきたい。

また、EOG 残り 10 秒以下、白 27 - 青 30 という点差、両チームファウルが赤筒の場面で、白がファウルゲームをしようとしたが、その意図をくみ取り切れず、ファウルを宣することができなかった。交流戦であったとしても、選手やチームがやろうとしている意図を感じ取り、最大限寄り添ったゲーム運営ができるように、経験を積んでいきたい。

主任の雨宮氏 (山梨) からは、アウトオブバウンズなどを宣する際に、ディレクションの途中で飛んできたボールをキャッチしてしまうことについて指摘をいただいた。常に映像に映されていることを意識してコートに立ち、正しい判定を示すことを優先しつつ、ボールを取ってきてくれた選手への感謝も忘れずに、これから臨んでいきたい。

担当試合 2日目①

期 日	2月22日(日) 4試合目
対戦カード	山梨県 vs 神奈川県 (中学生女子)
ク ル -	CC : 諏訪 圭祐氏 (東京) U1 : 桑原 由貴氏 (千葉) U2 : 千葉 みのり (埼玉)
ミーティング内容	IR : 若林 哲氏 (埼玉)

▶ゲーム前の PGC

3 PO メカニクスの確認として、リードのスイッチサイドやエッジの見方、C サイドエントリー時のローテーション、8 秒バイオレーションやバックパスの確認、EOQ/EOG についての確認などを行った。また、前日にそれぞれが経験した事象 (TO トラブルやメカの崩れなど) への対処方法を共有し、同じことが起きた際にスムーズに処理できるよう確認してから試合に臨んだ。

▶ゲーム後のミーティング

IR の若林氏（埼玉）から、スリーポイントを確認する際の動き方について指摘をいただいた。FUL を確認した後に、遅れてアングルを取りに行くケースがあるため、先回りしてポジションアジャストし、いい位置取りで止まった状態で判定できるようにしていきたい。

主任の永田氏（東京）からは、リードの際の動き方や視野の当て方について、ボールへの意識が強すぎると指摘をいただいた。私たちクルーは、ミラーザボールの意識や、ボールサイドツー（スイッチサイド）の意識が強すぎるがゆえに、3人がボールを見ている時間帯が目立ってしまった。結果、3線カバードフェンスのコンタクトに対する判定が、プライマリーであるリードから入れることができなかつたり、瞬間的な判定となってしまう場面があった。永田氏からは、リードの際、常にディフェンスの色や番号をつぶやきながらコートに立つと良いと反省をいただいた。これは、レフェリーディフェンスに対する意識の強化に最適な方法だと感じた。

また、トレイルの際に、ボールマンに対する追従の仕方が、肩に力が入りすぎていると指摘をいただいた。意識を絞る必要のある場面と、もう少しフラットに全体を捉えた方がよい場面の使い分けができるようにしていきたい。

担当試合 2日目②

期 日	2月22日（日） 11 試合目
対戦カード	東京都 vs 神奈川県（中学生女子）
ク ル ー	CC：桑原 由貴（千葉） U1：千葉 みのり（埼玉） U2：諏訪 圭祐氏（東京）

ミーティング内容	IR：伊東 洋揮氏（千葉）
----------	---------------

▶ゲーム前の PGC

1 本目の映像をクルーで振り返りながら、ローテーションなど改善できそうな事象について確認した。また、永田氏から言っていた、「リードの際にディフェンスの番号をつぶやく意識」をクルーで再確認した。その意識のせいで、ローテーションが上手くいかなかったり、メカが崩れるケースなども想定してから試合に臨んだ。

▶ゲーム後のミーティング

トラベリングとファウルで判定が割れ欠けた場面があったが、クルーで寄って結論を出すといった協力ができなかった。その原因として、クルー3人がディフェンスに対する意識を高めることに集中していたため、ほかのことに対して気を回す余裕がなかったのではないかと考えられる。何かを意識して試合に臨むうえで、当たり前のことをきちんと両立して行うことができるよう、心に余裕を持てるようにしていきたい。

担当試合 2日目③

期 日	2月22日（日） 12 試合目
対戦カード	群馬県 vs 茨城県（中学生女子）
ク ル ー	CC：千葉 みのり（埼玉） U1：諏訪 圭祐氏（東京） U2：桑原 由貴氏（千葉）

ミーティング内容	IR：鈴木 孝一氏（茨城）
----------	---------------

▶ゲーム前の PGC

引き続き、リードの際のディフェンスを見る意識について話した。また、今までの試合で EOQ/EOG が上手くいってなかったため、ラストゲームでしっかり締められるように確認してから試合に臨んだ。

▶ゲーム後のミーティング

IR の鈴木氏（茨城）から、トスアップのボールの高さについて指摘をいただいた。中学生女子のゲームであったため、あまり高すぎても良くないとのことで、適度なボールの高さを見つけられるように努めていきたいと感じた。

クルー全体に向けては、一日を通して言われてきた反省と、何を意識して試合に取り組んでいたかを聞かれ、その意識がすぐ伝わってきたゲームだったと好評をいただいた。プレゼンをゆっくり堂々と魅せることであったり、アウトオブバウンズの協力や、速攻の場面での 2 or 3 の協力など、限られた担当試合の中で、クルーの協力や信頼関係を築くことができた試合だったと感じた。

全体の感想

2 日間の実技研修を通して、意識的に取り組んで成功したこともあれば、無意識のうちに良くない見方や捉え方になってしまっていたこともあった。その無意識の良くない点に気付くことができたのは、普段あまり試合を見ていただく機会のない、県外の方々に見てもらったからではないかと感じている。また、講評だけではなく、ほかの審判員のゲームを、県外の方々と一緒に見学することも新鮮であり、埼玉県とは違った見方・見られ方があるのだなと、とても勉強になった。

私自身が教えていただいたことを、県内で同じ課題を持っている審判員へ還元できるように、これからの審判活動に励んでいきたい。